

2012年3月期第2四半期 決算説明会

～東日本大震災から半年、回復へのステージに移行～

円高が進行するなか、日本の製造業を物流の面からサポート



2011年11月25日

決算説明会のアウトライン(目次)

	頁
これまでの日新	
会社概要	P.5
現在の日新	
決算概要	第2四半期実績 P.14 通期計画 P.20
これからの日新	
中期経営計画	進捗状況 P.25
補足資料(ご参考資料)	P.35

決算ハイライト（2012年3月期第2四半期）

第2四半期は、計画値を上回る

- 前半は、震災の影響により、日本発の自動車関連貨物の取扱いが大幅に落ち込んだが、SCMの早期復旧とともに、取扱いが回復。日本での輸入業務は全般的に順調に推移。
 - 売上高：89,512百万円(期初計画比2.6%増、前年比1.4%増)
 - 営業利益：1,545百万円(期初計画比54.5%増、前年比22.0%減)

通期は、前年並みを確保

- 第2四半期までの進捗は計画を上回って推移しているが、タイ洪水の影響や円高、欧米景気への危惧など先行き不透明感が強く、2012年3月期計画は、期初計画を据え置く。
- 震災支援・復興需要への対応や海外プロジェクト、中国、アジア、北米での営業強化等により、前年並みの業績確保をめざす。

2012年3月期 会計方針変更

- 輸出航空混載貨物輸送における航空会社との運賃契約上の当社グループ受取手数料等は、従来、売上として計上していたが、第1四半期連結会計期間より、売上原価(仕入航空運賃)から控除する方法に変更。
2011年3月期：192,617百万円(従来) → 175,478百万円(変更後)

最近のトピックス

第4次中期経営計画スタート

- 4月1日に第4次中期経営計画スタート、半年が経過
- 海外展開順調
 - ベトナムで当社グループ単独仕立てのコンテナ専用列車(ブロックトレイン)運行開始
 - タイで低温輸送サービスの新会社を設立

「認定通関業者」、「グリーン経営認証」の取得

- 2011年9月7日、セキュリティー管理と法令遵守の体制が整備された通関業者として、横浜税関より、「認定通関業者(AEO)」を取得
- 「グリーン経営認証」の取得推進(新規取得2事業所、更新3事業所)

海外プロジェクトの完遂

- イタリア・シチリア州への薄膜太陽電池の生産設備輸送プロジェクト完遂

＜生産ライン用製造装置＞ 日本 → 顧客イタリア工場搬入
総物量 約2万1千トン

日新について

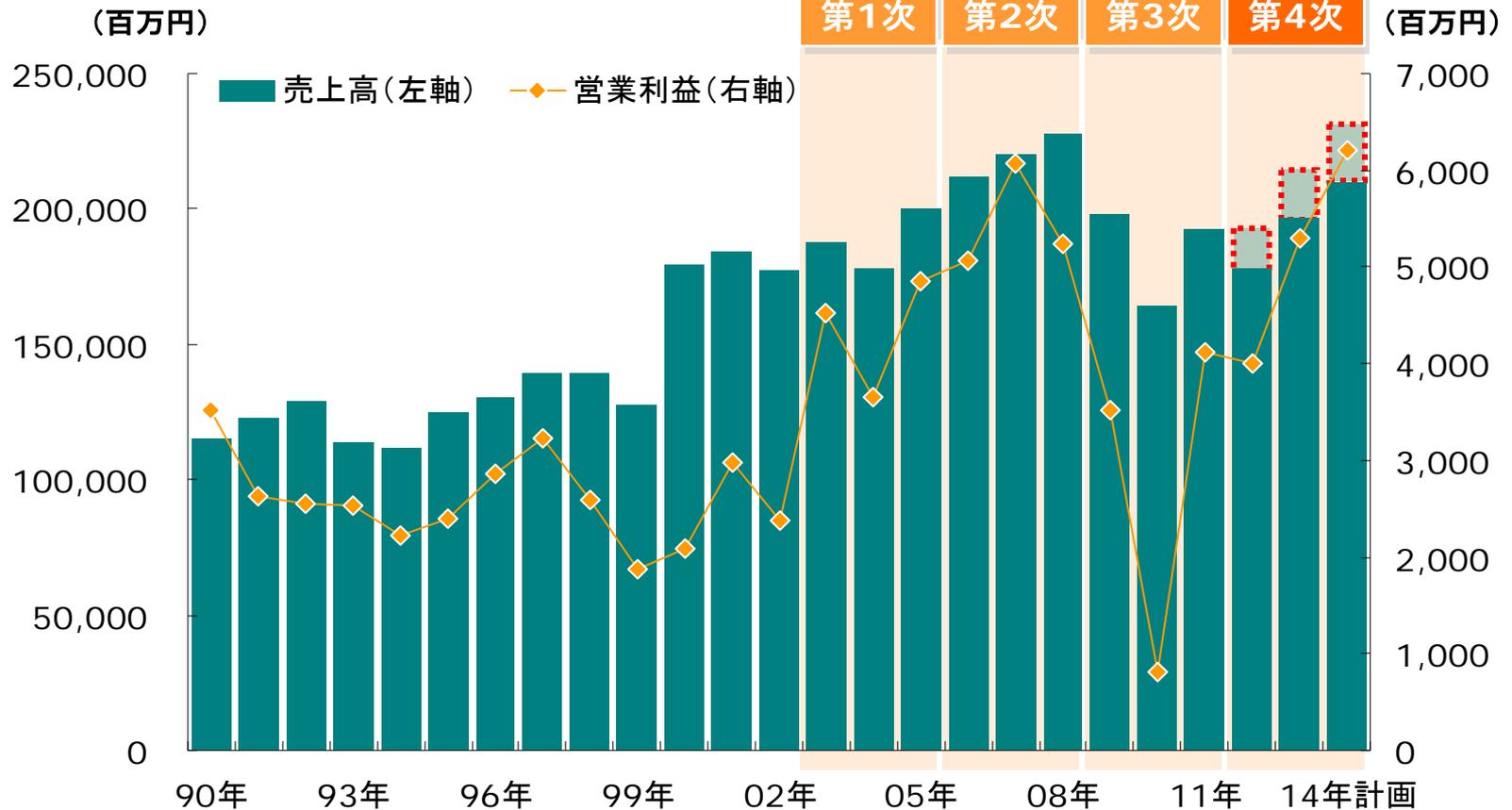
~「日々新たに」の“日新スピリット”で、
新商品・サービスの開拓へ挑戦~

日新の成長のあゆみ

国際物流の先駆者

自動車、家電産業等の海外進出とともに、
事業を拡大

中期経営計画



※ 2012年3月期 会計方針変更、12年3月期以降の赤点線は従来処理の場合の参考値

会社沿革

国内

1955年

- 日本初「中国展示会」業務取扱い

1950年4月

- 東京証券取引所第一部上場

1938年12月

- 川崎市に「日新運輸株式会社」設立

1985年10月

- 「株式会社日新」と商号変更

1978年4月

- 空旅客部を分離し、「日新航空サービス株式会社」設立

1961年8月

- 日新埠頭として埠頭業開始
- 神奈川埠頭完成

2007年2月

- 日新航空成田ロジスティクスセンター開設

1995年3月

- 関西国際空港内グランドサービスを取扱う「日新エアポートサービス株式会社」設立

2010年10月

- 羽田空港事務所開設

2009年4月

- 堺ロジスティクスセンター開設

11月

- 「鶴見倉庫株式会社」の全株式を取得

日新のDNA、時代のパイオニア

1974年1月

- 香港に現地法人「日新運輸倉庫(香港)有限公司」設立

1985年1月

- 西独に現地法人「NISSIN TRANSPORT GmbH」設立

1999年5月

- インドに合弁会社「NISSIN ABC LOGISTICS PRIVATE LIMITED」設立

2006年5月

- ベトナムに現地法人「NISSINLOGISTICS(VN) CO., LTD.」設立

1973年12月

- 米国に現地法人「NISSIN INTERNATIONAL TRANSPORT U.S.A., INC.」設立

1975年7月

- ロンドン支店開設

1992年8月

- 中国に合弁会社「上海高信貿儲実業有限公司」設立

2005年3月

- ロシアに現地法人「L.L.C NISSIN RUS」設立

1973年

- シベリア鉄道経由コンテナ複合一貫輸送サービス開始

海外

事業構成

～物流事業を主に旅行、不動産事業を展開～

	事業	売上構成比 (12.3 第2四半期)
連結	物流事業	71.7%
	旅行事業	27.7%
	不動産事業	0.6%

	地域	売上構成比 (12.3 第2四半期)
連結	日本	86.1%
	北米	4.3%
	欧州	4.0%
	アジア	4.0%
	中国	1.6%

	事業	売上構成比 (12.3 第2四半期)
単体	海上	43.8%
	航空	15.3%
	陸運	10.4%
	倉庫	12.2%
	海運	1.5%
	構内・他	16.3%
	不動産	0.4%

※ 数値は、各地域・各事業の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

顧客の状況 ~ 自動車・電機・石油化学を中心に幅広い顧客 ~

2012年3月期 第2四半期顧客構成(単体、上位100社)

	12年3月期第2四半期		主な業務			
	実績(百万円)	構成比				
電機関係	4,020	14.8%	航空輸出入	海上輸出入	構内作業	
自動車関係	3,792	14.0%	航空輸出入	海上輸出入		
海運	3,128	11.5%	ターミナル運営事業	船舶代理店		
石油	2,782	10.2%	構内作業	倉庫	海上輸出入	陸運
化学工業品	2,658	9.8%	構内作業	倉庫	海上輸出入	陸運
住宅・家具	2,546	9.4%	海上輸出入	倉庫		
食品・飲料	1,353	5.0%	航空輸出入	海上輸出入		
商社	1,254	4.6%	航空輸出入	海上輸出入		
機械・機器	1,043	3.9%	航空輸出入	海上輸出入		
小売	1,015	3.7%	海上輸出入	倉庫		
アパレル・繊維	367	1.3%	航空輸出入	海上輸出入		
その他	3,201	11.8%				

地域別 取扱物量(2011年3月期)

- 航空、海上貨物ともに、日本発が取扱いの過半を占めるが、次いで、中国発が25%程度。

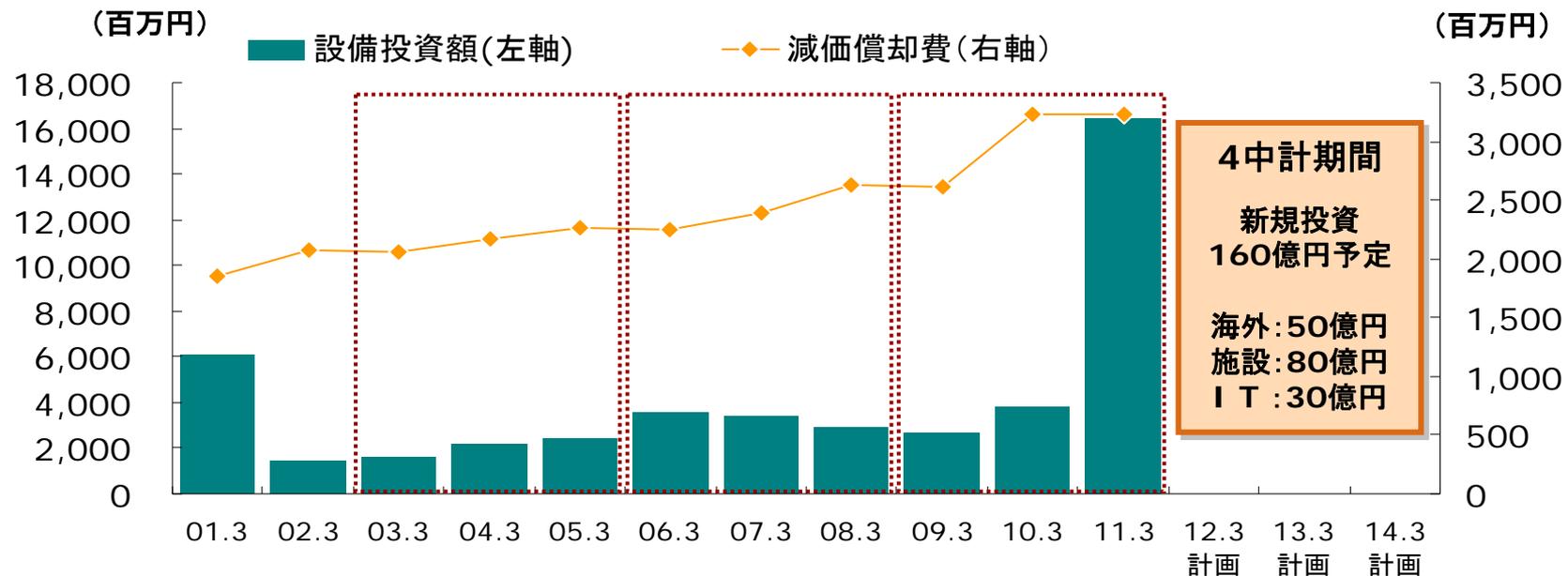
地域	航空貨物		海上貨物(NVOCC FCL)		傾向
	輸出実績(トン)	構成比	輸出実績(TEU)	構成比	
日本	38,800	54.8%	40,500	51.0%	
北米	9,000	12.7%	5,700	7.2%	
欧州	1,500	2.1%	500	0.6%	
アジア	4,600	6.5%	10,300	13.0%	
中国	16,900	23.9%	22,400	28.2%	
合計	70,800		79,400		

日本発混載貨物
業界シェア

3.40%

※ TEU(Twenty feet Equivalent Unit): 20フィートコンテナ換算個数
日本発混載貨物業界シェアは当社集計値により算出

投資および減価償却費の推移



日新
動き
(出来事)

摩耶東物流センター建設

成田LC建設

マラッカ倉庫建設

鶴見倉庫取得

堺LC取得

中国 体制強化

アジア 基盤拡充

国内施設再構築

グローバル物流の強化

- ベトナムでは2008年、ハノイに鉄道輸送を専門とする合弁会社を設立し、自動車輸送用「カーワゴン」を開発。ハノイーホーチミン間で、環境にやさしい鉄道輸送による、自動車輸送サービスを実現。(カーワゴン16両保有、週6往復運行)
- さらに、本年4月、コンテナ専用列車(ブロックトレイン)の当社グループ単独仕立てによる運行を開始。(週2往復運行)
- インドでは、すでに10年以上の実績・経験を有しており、現在はデリー地区から南部の各都市を結んだトラック輸送サービスを提供。(トラック50台保有)



ベトナム国鉄と共同開発した
カーワゴンによる輸送サービス



- シンガポール・マレーシア・タイ間でクロスボーダー輸送を開始。従来、通関・配送で1週間以上要していたが、3日～5日とほぼ半減で輸送可能。
- 本年11月、タイにおける低温輸送サービスの新会社設立。
- 北米においてメキシコからのボーダー輸送を拡大。
- 拠点網の拡充 - ブラジル、イタリア

- 中国・上海ー東京間で、2003年より提供のホット・デリバリー・サービス(HDS)を、スーパー・ホット・デリバリー・サービス(S-HDS)へグレードアップ。上海出港から東京デリバリーまで3日間というスピード輸送を実現。



国内事業の強化

堺ロジスティクスセンターの収益力強化

- 2009年4月稼働した大型物流施設「堺ロジスティクスセンター」は、金融コストの削減と長期の安定したサービスの提供をはかるため、本年3月、リースによる賃借を見直し、取得。
- 堺ロジスティクスセンターを活用した輸入・配送一貫輸送の拡大を推進。



鶴見倉庫とのシナジー効果創出

- 2009年11月取得した鶴見倉庫(株)とのシナジー効果により、危険品物流事業を強化。
- 鶴見倉庫(株)は、危険品倉庫7棟を保有する危険品倉庫事業者であり、鶴見倉庫(株)の強みと、当社の持つ国内外の物流網を活かした新サービスの開発を推進。
- 2010年9月、世界80カ所への危険品海上混載輸送サービスを開始。
- 国内では危険品の陸上混載輸送サービスを拡充。



2012年3月期 第2四半期実績
～ 期初計画を上回るも、前年比増収減益～

2012年3月期 第2四半期実績

- 前半は、震災の影響により、日本発の自動車関連貨物の取扱いが大幅に落ち込んだが、SCMの早期復旧とともに、取扱いが回復。日本での輸入業務は全般的に順調に推移。

(単位:百万円)

	2011年3月期 第2四半期	2012年3月期第2四半期			
		実績	前期比	期初計画	計画比
売上高	88,250	89,512	1.4%	87,200	2.7%
営業利益	1,980	1,545	△22.0%	1,000	54.5%
経常利益	2,139	1,873	△12.4%	1,100	70.3%
当期利益	1,084	1,027	△5.3%	600	71.2%
EPS(単位:円)	10.85	10.44	△3.8%	6.00	74.0%

地域別業績(売上高・営業利益)

- 欧米は、リーマンショックの影響が残り、自動車・電機関連の回復が鈍く低調に推移したが、アジアが経済成長にも支えられ伸長したほか、中国が堅調に推移。

(単位:百万円)

	2011年3月期 第2四半期		2012年3月期 第2四半期							
	売上高	営業利益	売上高				営業利益			
	実績	実績	実績	前期比	期初計画	計画比	実績	前期比	期初計画	計画比
日本	84,156	1,515	85,160	1.2%	82,365	3.4%	1,143	△24.6%	383	198.4%
北米	4,442	181	4,296	△3.3%	4,191	2.5%	68	△62.4%	73	△6.8%
欧州	3,237	96	3,967	22.6%	3,576	10.9%	4	△95.8%	184	△97.8%
アジア	3,715	57	3,970	6.9%	4,118	△3.6%	180	205.1%	225	△20.0%
中国	1,551	148	1,541	△0.6%	1,512	1.9%	155	4.7%	135	14.8%
調整	△8,851	△17	△9,422		△8,562		△5		0	
合計	88,250	1,980	89,512	1.4%	87,200	2.7%	1,545	△ 22.0%	1,000	54.5%

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

【単体】事業別業績(売上高)

- 震災の影響により、前半、輸出海上・航空貨物の取扱いが落ち込んだ。倉庫は、関西地区を中心に好調に推移。

	セグメント	2011年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期			
		売上高	売上高	構成比	増減額	増減率
(株)日新	海上	23,246	21,817	43.8%	△1,429	△6.1%
	航空	7,728	7,599	15.3%	△129	△1.7%
	陸運	5,142	5,166	10.4%	23	0.5%
	倉庫	5,239	6,052	12.2%	813	15.5%
	海運	586	762	1.5%	176	30.0%
	構内・他	7,988	8,150	16.3%	161	2.0%
	不動産	216	255	0.4%	38	18.1%
	合計	50,146	49,800	100.0%	△ 345	△ 0.7%

※ 数値は、各事業の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

地域別物量推移(輸出航空貨物)

- 日本、アジアは震災の影響で取扱いが減少したが、中国は順調に推移。

地域	2010年4~9月	2011年4~9月	
	実績(トン)	実績(トン)	前期比
日本	19,826	16,690	△15.8%
北米	5,611	5,261	△6.2%
欧州	531	754	42.0%
アジア	2,254	1,978	△12.2%
中国	7,933	9,239	16.5%
合計	36,155	33,922	△6.2
日本発混載貨物 業界シェア	3.4%	3.1%	

※ 業界シェアは当社集計値により算出

地域別物量推移(輸出NVOCC(FCL))

- 日本は、震災直後に落ち込んだものの、その後は、中国向け、北米向けが大幅増、欧州向けも寄与。中国は順調に伸長。

地域	2010年4~9月	2011年4~9月	
	実績(TEU)	実績(TEU)	前期比
日本	18,415	21,860	18.7%
北米	2,873	3,356	16.8%
欧州	278	264	△5.0%
アジア	4,856	4,941	1.8%
中国	10,921	12,164	11.4%
合計	37,343	42,585	14.0%

※ TEU(Twenty feet Equivalent Unit): 20フィートコンテナ換算個数

2012年3月期 通期計画

～前年並みの確保を目指す～

東日本大震災以降の外部環境

当初の想定

- 自動車産業では、東北地方での被災の影響が大きく、立ち上がりまで1年以上を要する。
- 製造業の西日本への移転が起きる。
- 放射能の影響で、東京・横浜港への寄航が減少する。
- 業務渡航、団体旅行の自粛が長引く。
- 震災支援・復興関連貨物などの輸入取扱が増加する。

現在、見えてきたこと

- 自動車産業では、当初の想定よりも早く復旧し、本格的な稼働が始まった。しかし、タイ洪水の影響により、先行き不透明。
- 製造業の西日本へ移転は限定されたが、円高により、中小の製造業者に海外移転の兆しが現れた。
- 旅行業の環境は、急速に好転している。
- 震災支援・復興関連貨物などの輸入取扱は、震災直後、増加したものの、現在は、落ち着いている。

2012年3月期 通期計画

- 第2四半期までの進捗は期初計画を上回って推移しているが、タイ洪水の影響や円高の進行、欧米景気への危惧など、先行き不透明感が強く、2012年3月期計画は、期初計画を据え置く。
- アジア展開等については、引き続き前向きな取り組みを進める。

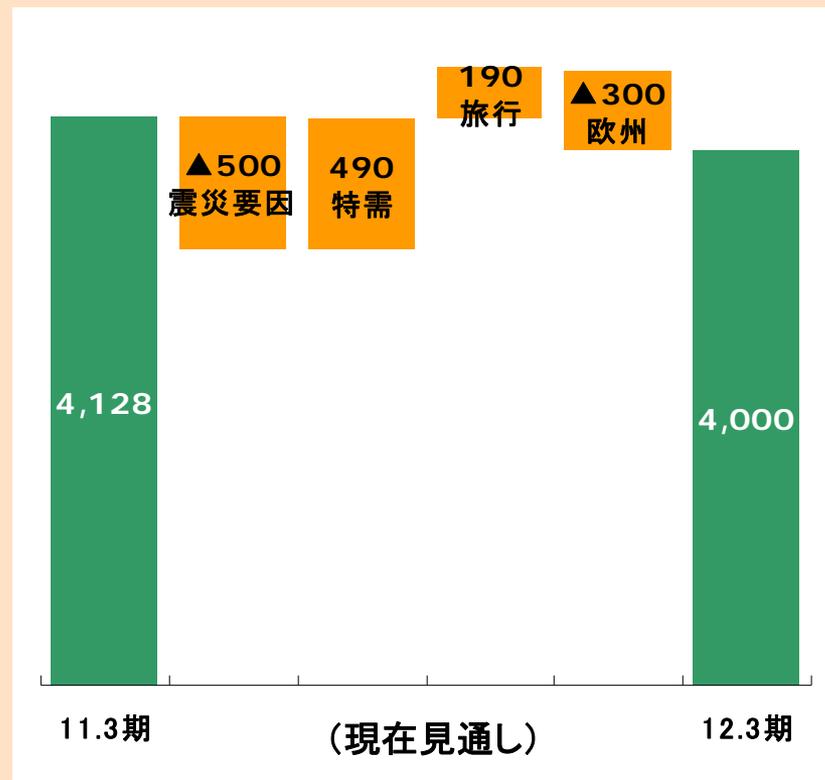
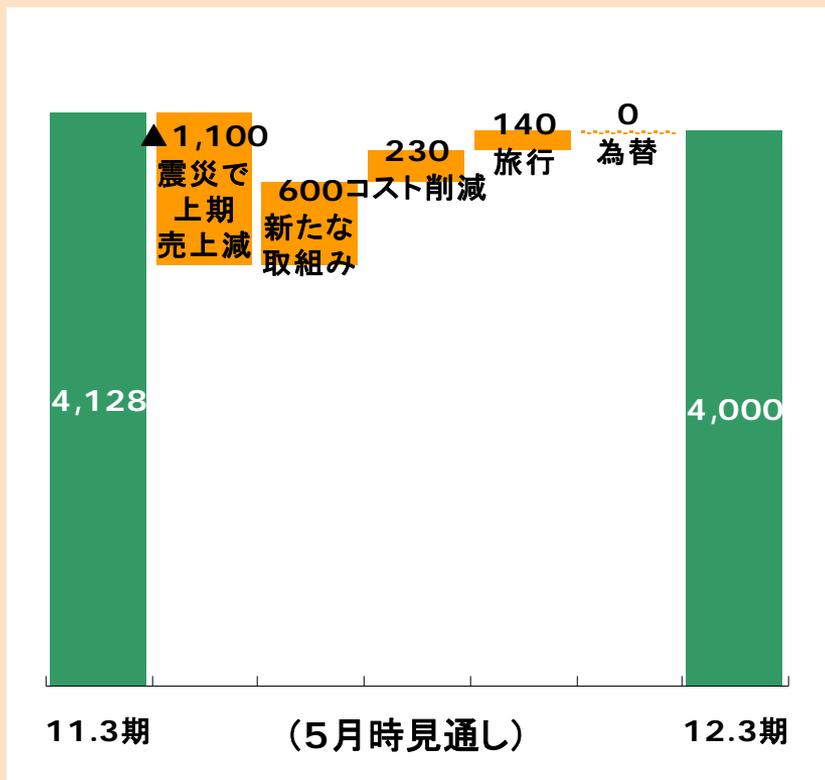
(単位:百万円)

	2012年3月期				
	第2四半期実績	前年同期比		通期計画	前年同期比
		前年同期比	通期計画進捗率		
売上高	89,512	1.4%	49.2%	182,000	3.7%
営業利益	1,545	△22.0%	38.6%	4,000	△3.1%
経常利益	1,873	△12.4%	45.7%	4,100	△5.9%
当期利益	1,027	△5.2%	44.7%	2,300	15.9%

2012年3月期 通期計画

- 上期に震災による売上減少があるが、日本での震災支援・復興需要への対応や自動車関連貨物の取り込み、および、中国、アジア、北米での営業強化等により、前年並みの業績確保をめざす。
- 為替は1\$=¥76を想定

営業利益増減要因



2012年3月期 地域別通期計画

- 下期、先行き不透明ながら、日本からの自動車関連部品の輸出増、および、中国、アジアでの堅調な推移、また、北米での荷動き回復を見込む。

(単位:百万円)

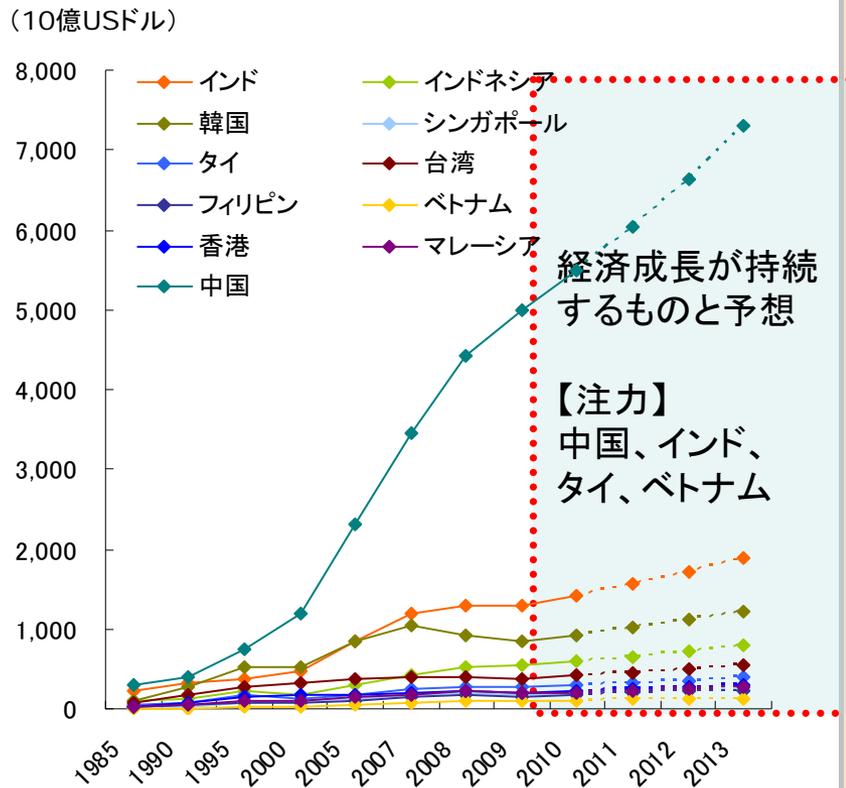
	2012年3月期 第2四半期						2012年3月期 通期計画			
	売上高			営業利益			売上高		営業利益	
	実績	前期比	進捗率	実績	前期比	進捗率	計画	前期比	計画	前期比
日本	85,160	1.2%	48.6%	1,143	△24.6%	38.4%	175,188	4.7%	2,975	1.2%
北米	4,296	△3.3%	58.0%	68	△62.4%	44.7%	7,408	△7.3%	152	△45.5%
欧州	3,967	22.6%	57.7%	4	△95.8%	4.2%	6,870	1.9%	96	△72.7%
アジア	3,970	6.9%	51.4%	180	215.8%	60.2%	7,731	△2.0%	299	24.6%
中国	1,541	△0.6%	51.5%	155	4.7%	49.8%	2,993	△5.1%	311	3.0%
調整	△9,422			△5			△18,188		167	
合計	89,512	1.4%	49.2%	1,545	△22.0%	38.6%	182,000	3.7%	4,000	△3.1%

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

中期経営計画策定の前提条件

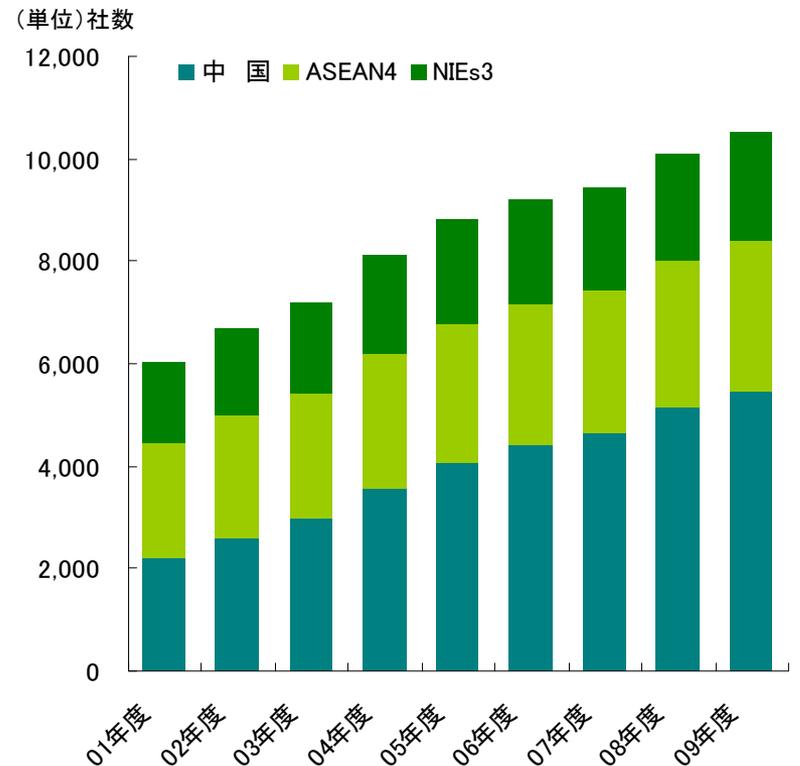
- 中国・アジアの経済成長が持続 → リソースを重点投入
- 製造業の海外移転が増加 → 海外移転をサポート(調査出張、設備移設、引越等)

アジア各国の成長持続



(出所)総務省統計局

アジアへの海外移転



(出所)経済産業省 海外事業活動基本調査

日新の強み

中国物流の先駆者

- 1955年から中国との物流事業に着手
- 充実のネットワーク
→ 中国6現法78拠点
- 高度な物流ノウハウ
→ 鉄道利用輸送、保税VMI、低温輸送
- 強力な運賃競争力、スペース提供力
→ 日本発中国向け航空貨物 シェア8.2%
中国発航空貨物 日系4位

アジアでの基盤充実

- アジア域内をカバーするネットワーク網 - 7現法55拠点
→ タイ、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インド、ベトナム、インドネシア
- 信頼の陸上輸送実績
→ 鉄道利用輸送(ベトナム)、トラック輸送(シンガポール・マレーシア・タイ)

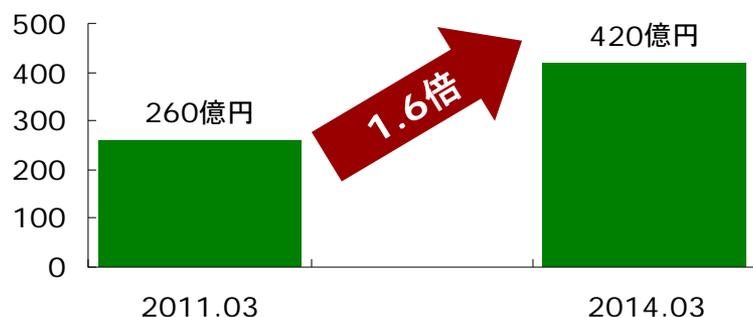
中期経営計画の進捗状況

～ がんばろう！中国・アジア ～

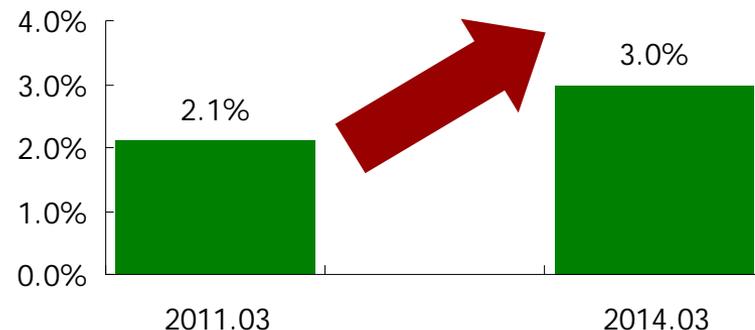
第4次中期経営計画

～ 定量目標～

海外現地法人の売上高拡大



利益率の向上



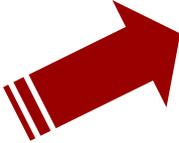
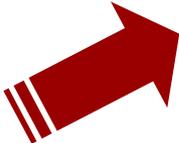
(単位: 百万円)

	2007.03	2008.03	2009.03	2010.03	2011.03	第4次中期経営計画		
	実績	実績	実績	実績	実績	2012.03	2013.03	2014.03
売上高	220,170 (199,850)	227,749 (205,140)	197,860 (182,647)	164,420 (149,956)	192,617 (175,478)	178,400	197,000	210,000
営業利益	6,071	5,244	3,528	819	4,128	4,000	5,300	6,200
経常利益	6,626	5,376	3,487	1,030	4,357	4,000	5,500	6,400
当期純利益	3,937	2,256	1,512	613	1,984	2,000	3,300	4,000
営業利益率	2.8%	2.3%	1.8%	0.5%	2.1%	2.2%	2.7%	3.0%
ROE	10.0%	5.6%	4.0%	1.7%	5.4%	5.3%	8.3%	9.3%

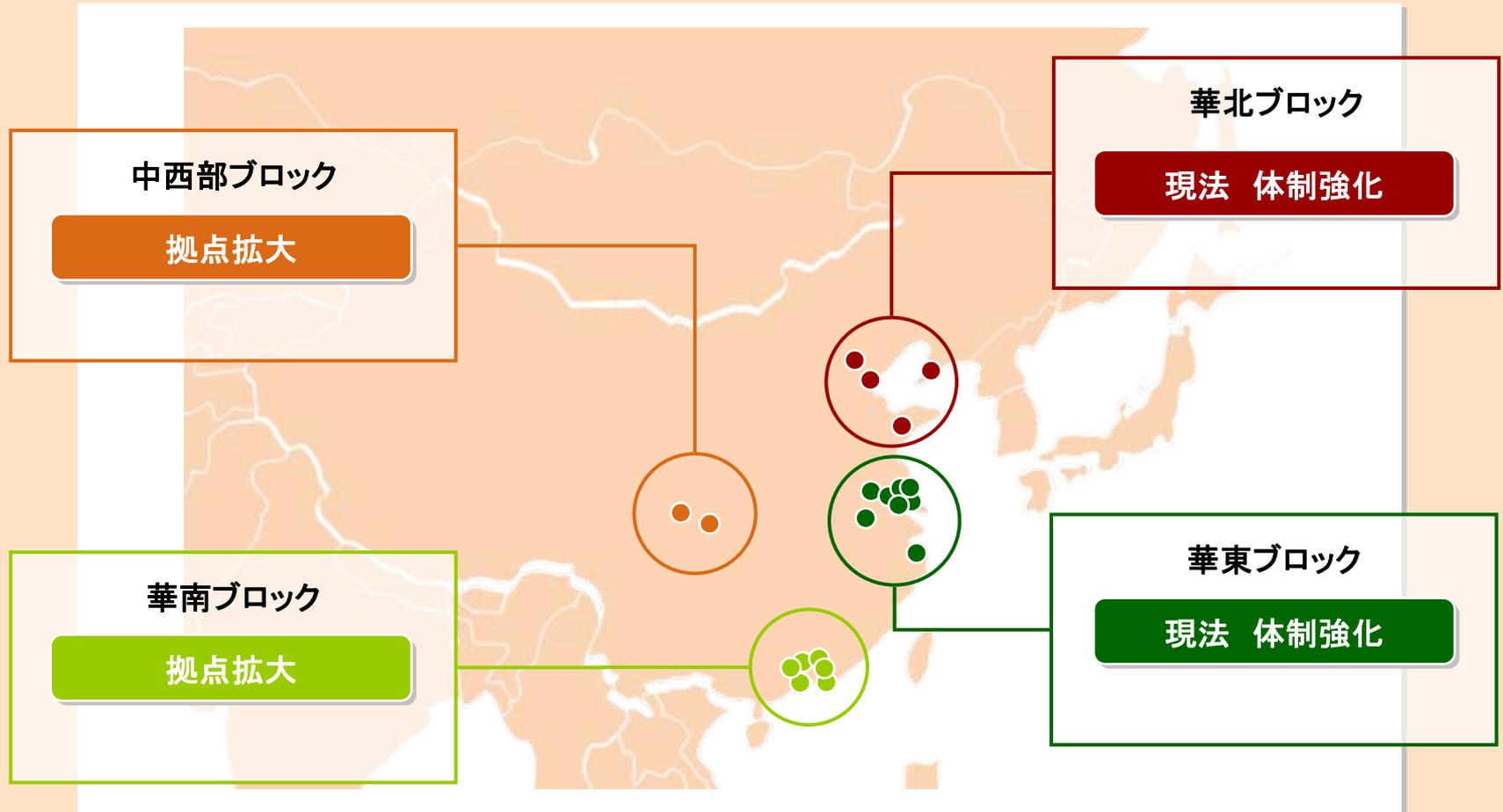
注) 2012.03以降の目標売上高は、当社会計方針変更(輸出航空混載貨物輸送における当社受取手数料等の計上方法変更)後の数値であり、2007.03～2011.03売上高の()内数値は、当該計上方法を変更した場合の参考値

第4次中期経営計画

～5つの重点施策～

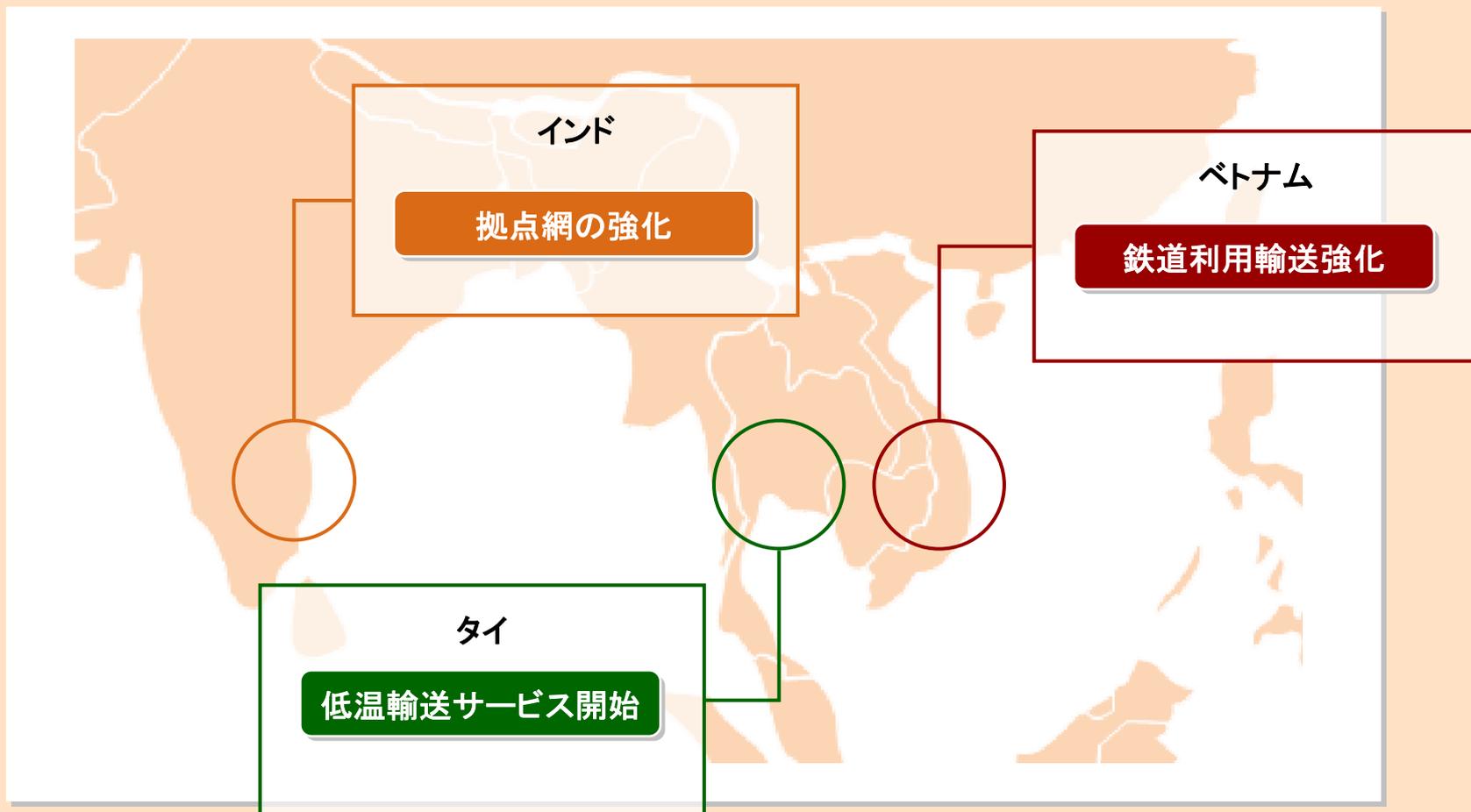
5つの重点施策	事業環境	現在の取り組み状況	進捗
1. フォワーディング事業の強化 <ul style="list-style-type: none"> ● 航空・海上・NVOCC事業の拡大 ● 自動車・電機電子・化学品分野をベースにした営業強化 ● 重点地域での積極的推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● FTA、EPAの促進に加え、TPP参加の協議開始により、今後、輸出入大幅拡大の見込み ● 円高による輸出減、輸入増 	<ul style="list-style-type: none"> ● カスタマーベース拡大による営業基盤強化 ● 海外プロジェクトへの対応強化 	
2. 成長・新興国への注力 <ul style="list-style-type: none"> ● 中国 ● ベトナム ● インド 	<ul style="list-style-type: none"> ● 震災以降、日本企業の新興国進出が加速 ● 市場としての地位も上昇 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国内陸拠点の開設準備進行 ● ベトナム新商品(ブロックトレイン)の拡大 ● インド国内輸送車両増強、チェンナイ支店開設準備 	
3. 国内事業の整備・強化 <ul style="list-style-type: none"> ● 国内物流拠点の整備 ● 陸運事業の再構築 	<ul style="list-style-type: none"> ● 輸出入業務の起点として、効率性アップの必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内倉庫の稼働率向上を含めCRE戦略に着手 	
4. 新たな成長モデルの開発・育成 <ul style="list-style-type: none"> ● 危険品物流の拡充 ● 成長分野(食品、医薬・医療、環境関連)への展開・強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内外で成長産業の転換が進行 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい事業モデルの構築、および、中国・アジア拠点と協力した商品開発を推進 	
5. 強固な経営基盤の確立 <ul style="list-style-type: none"> ● グローバル人材の確保・育成 ● グローバルなIT対応力の強化 ● 連結経営の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバルベースでの人材、IT強化が国際競争力強化の要に 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材育成プログラムを推進 ● グローバルベースのIT対応力強化、IT人材育成、システム開発を推進 	

- 売上目標: 2011年3月比3倍増(30億円 → 90億円)
- 中西部、華南地区での拠点拡大
- 合併企業との提携強化



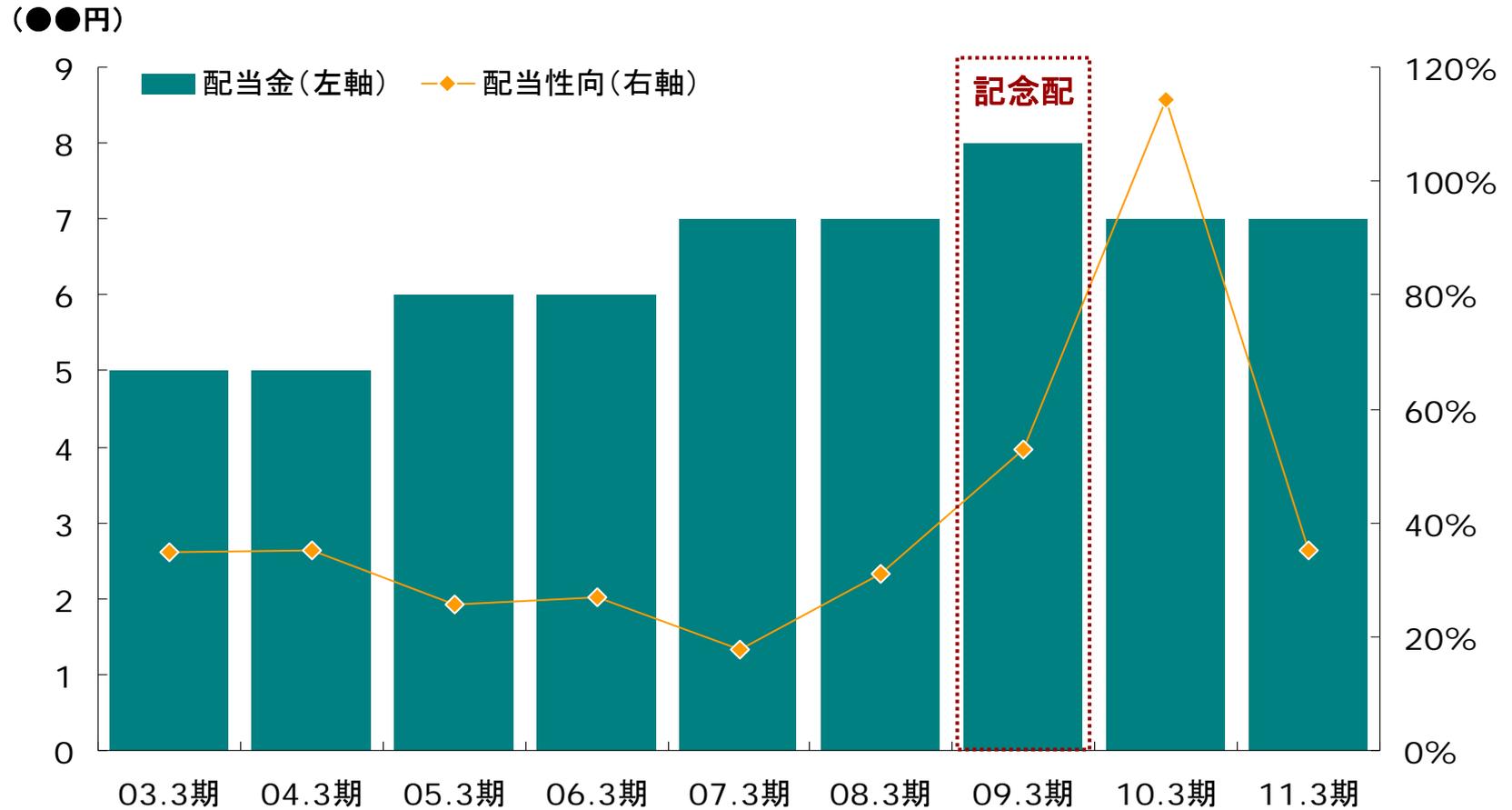
アジア戦略(アセアン・インド)

- ベトナム: 鉄道利用輸送の拡充 → カーワゴン、ブロックトレインの運行拡大
- タイ: 低温輸送サービスの提供開始 → 2011年11月、新合併会社設立
- インド: 拠点網の強化 → チェンナイ地区での拠点整備



配当について

- 安定的配当の継続を基本に、株主への利益還元の充実をはかる。



本日の決算説明会のまとめ

- 2012年3月期第2四半期業績は、前年比では増収減益ながら、期初計画値を上回る。
- 2012年3月期通期業績は、日本での震災支援・復興需要への対応や自動車関連貨物の取り込み、および、中国、アジア、北米での営業強化等により、前年並みの業績確保をめざす。
- 本年4月にスタートした第4次中期経営計画では、経済成長の期待される中国、アジアに、リソースを重点投入する。
- アジアでの事業基盤拡充は順調に推移している。→ ベトナムでの鉄道利用輸送の拡充、タイでの低温物流サービスの合弁会社設立。
- 製造業の海外移転では、初期の調査出張から、その後の設備移設、引越、部品物流まで、グループの総合力とネットワークを活かしたトータルサポートにより、取り込みをはかる。

補足資料(ご参考資料)

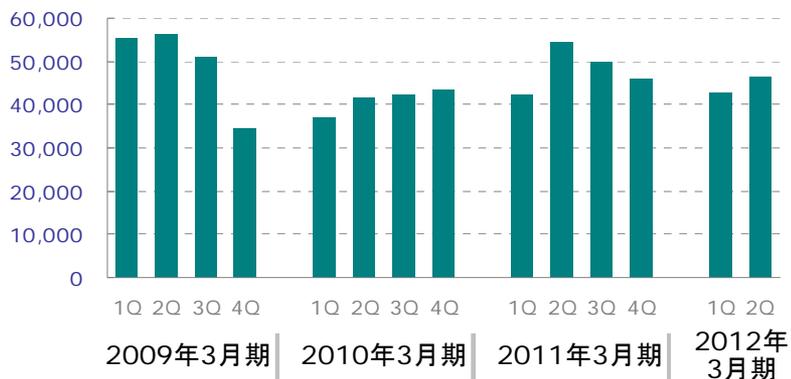
日新 会社概要

会社名	株式会社日新 東証1部 銘柄コード9066
代表者	代表取締役会長 筒井 博、代表取締役社長 筒井 雅洋
本社所在地	〒231-8477 横浜市中区尾上町6丁目84番地
設立	1938年12月14日
資本金	6,097百万円 (2011年6月30日現在)
主要事業	物流事業、旅行事業
従業員数	4,713名(連結) 1,227名(単体)
海外拠点数	209拠点
グループ会社	(株)北海道日新、板橋運送(株)、日新産業(株)、鶴見倉庫(株)、日新エアカーゴ(株)、(株)愛知日新、(株)九州日新、日新航空サービス(株)、Nissin international transport USA inc.、Nissin (UK) Ltd、日新運輸倉庫(香港)有限公司、など 59社

四半期ごとの実績推移

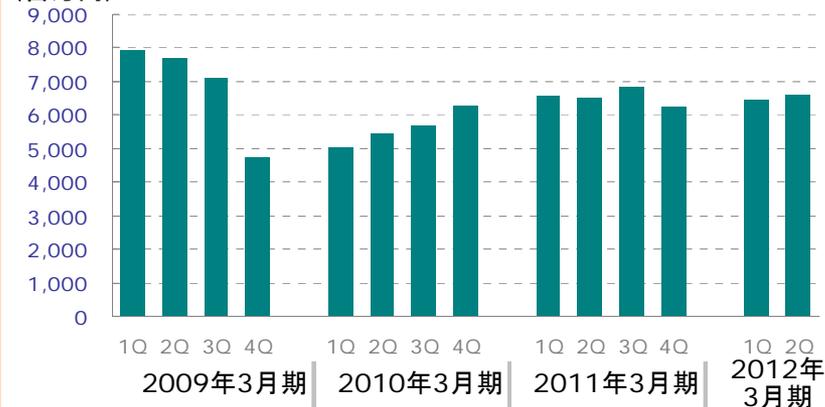
売上

(百万円)



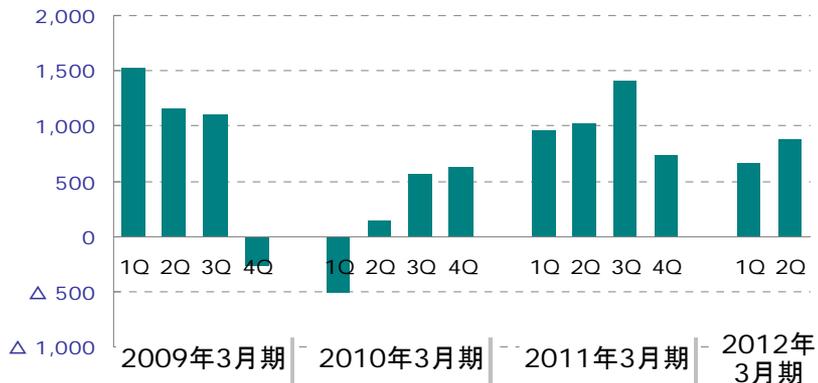
売上総利益

(百万円)



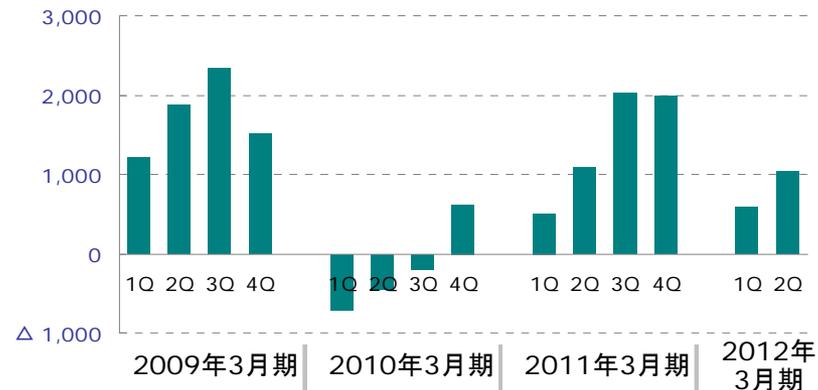
営業利益

(百万円)



純利益(累計)

(百万円)



貸借対照表 ~2012年3月第2四半期末~

(単位:百万円)

	2011年3月期 第2四半期末		2012年3月期 第2四半期末		
		構成比		構成比	増減
流動資産	41,950	41.9%	40,598	40.1%	△1,352
固定資産	58,085	58.1%	60,676	59.9%	2,591
資産合計	100,036	100.0%	101,275	100.0%	1,239
流動負債	34,110	34.1%	34,599	34.2%	489
固定負債	28,825	28.8%	29,303	28.9%	478
負債合計	62,935	62.9%	63,903	63.1%	968
純資産	37,101	37.1%	37,371	36.9%	270
負債純資産合計	100,036	100.0%	101,275	100.0%	1,239
設備投資	898		777		△121
減価償却費	1,600		1,540		△60

キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)

	2011年3月期第2四半期	2012年3月期第2四半期
営業活動によるキャッシュフロー	2,154	2,605
投資活動によるキャッシュフロー	△1,036	△1,052
フリーキャッシュフロー	1,117	1,553
財務活動によるキャッシュフロー	△3,592	△1,426
現金および現金同等物の増減額	△2,695	129
現金及び現金同等物の4半期末残高	9,296	8,933

事業別業績(売上高・営業利益)

(単位:百万円)

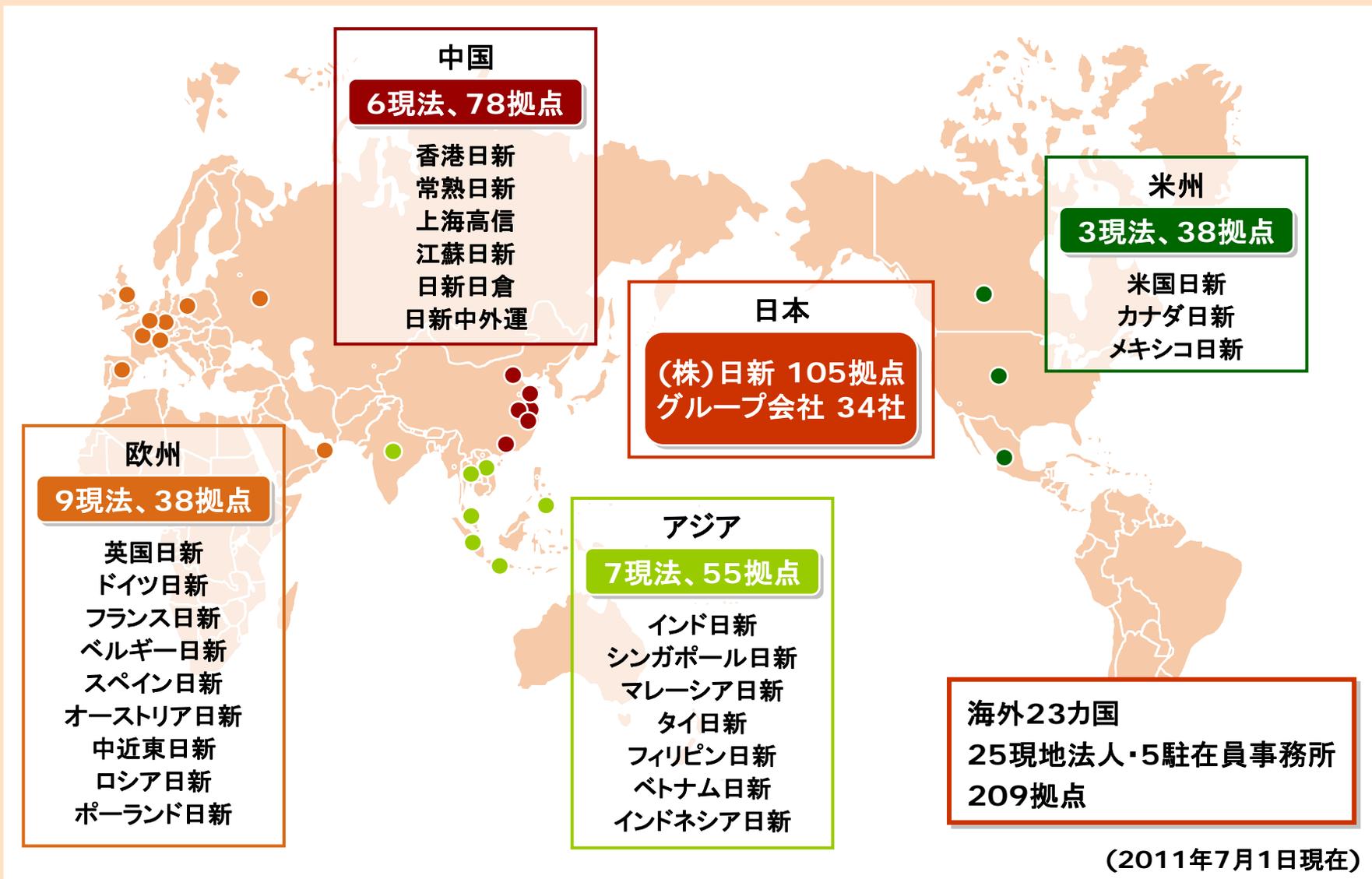
		2011年3月期 第2四半期		2012年3月期 第2四半期			
		売上高	営業利益	売上高		営業利益	
		実績	実績	実績	前期比	実績	前期比
物流	国内	17,363	86	18,081	4.1%	211	145.3%
	国際	46,349	1,529	46,094	△ 0.6%	998	△ 34.7%
旅行		24,022	23	24,839	3.4%	5	△ 78.3%
不動産		515	337	496	△3.7%	325	△ 3.6%
合計		88,250	1,980	89,512	1.4%	1,545	△ 22.0%

※ 国内物流:自動車運送、倉庫、構内作業他

国際物流:国際一貫輸送、港湾運送、航空貨物輸送、海外物流他

※ 数値は、各事業の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

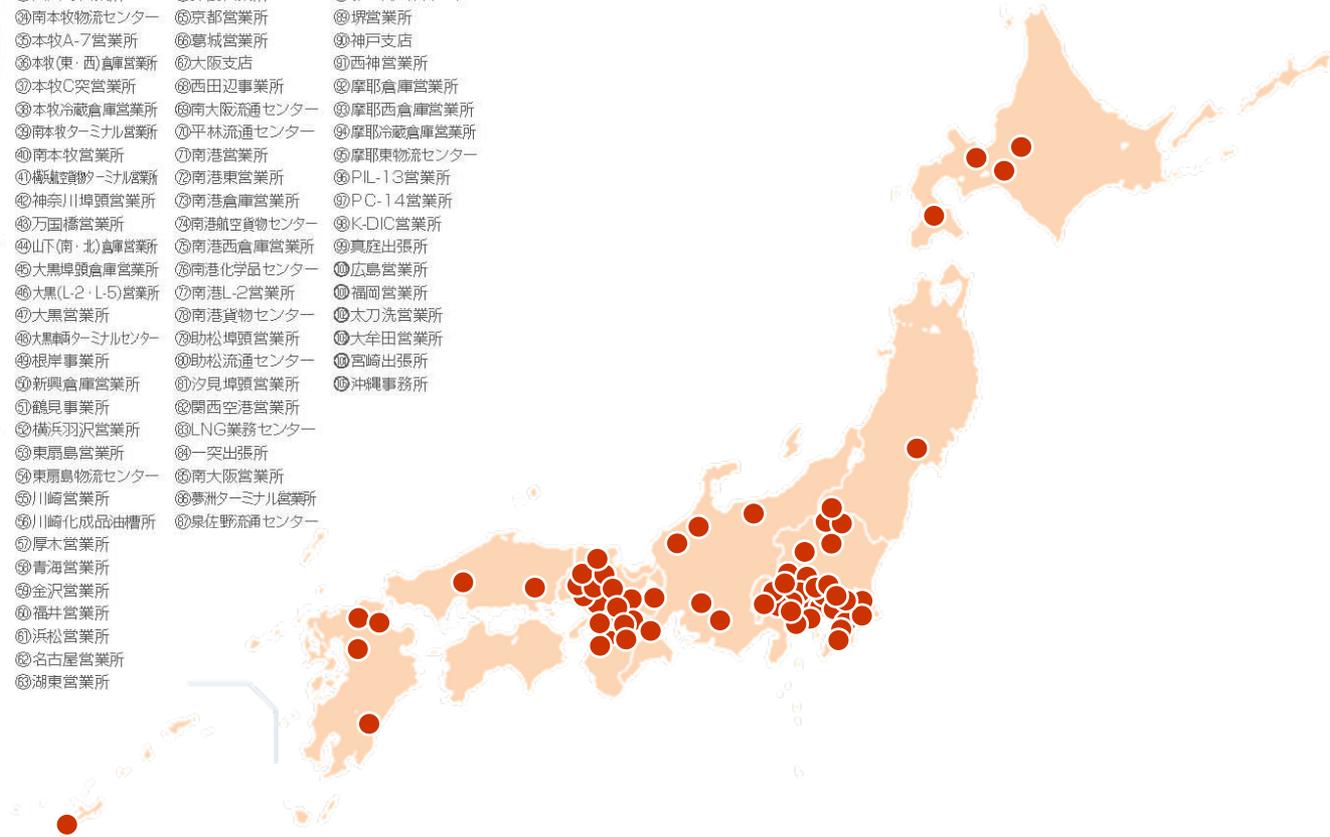
強固な海外拠点網



日新のサービス ～ 国内ネットワーク ～

- 全国105拠点のネットワークで、お客様にサービスを提供します

- | | | | |
|----------------|-----------------|-------------|-------------|
| ①札幌(北海道日新本社) | ⑩出田町営業所 | ⑲鈴鹿営業所 | ⑳山口ステイクセンター |
| ②江別営業所(北海道本社) | ⑪南本牧物流センター | ⑳京都営業所 | ㉑堺営業所 |
| ③苫小牧営業所(北海道日新) | ⑫本校A-7営業所 | ㉒葛城営業所 | ㉒神戸支店 |
| ④函館(北新港運本社) | ⑬本校(東・西)倉庫営業所 | ㉓大阪支店 | ㉓西神営業所 |
| ⑤角田営業所 | ⑭本校C突営業所 | ㉔西田辺事業所 | ㉔摩耶倉庫営業所 |
| ⑥北関東事業所 | ⑮本校冷蔵倉庫営業所 | ㉕南大阪流通センター | ㉕摩耶西倉庫営業所 |
| ⑦栃木事業所 | ⑯南本牧ターミナル営業所 | ㉖平林流通センター | ㉖摩耶冷蔵倉庫営業所 |
| ⑧芳賀営業所 | ⑰南本牧営業所 | ㉗南港営業所 | ㉗摩耶東物流センター |
| ⑨高崎営業所 | ⑱横浜倉庫ターミナル営業所 | ㉘南港東営業所 | ㉘PIL-13営業所 |
| ⑩太田営業所 | ⑲神奈川埠頭営業所 | ㉙南港倉庫営業所 | ㉙PC-14営業所 |
| ⑪茨城営業所 | ⑳万田橋営業所 | ㉚南港航空貨物センター | ㉚K-DIC営業所 |
| ⑫埼玉ふじみ野営業所 | ㉑山下(南・北)倉庫営業所 | ㉛南港西倉庫営業所 | ㉛真庭出張所 |
| ⑬朝霞営業所 | ㉒大黒埠頭倉庫営業所 | ㉜南港化学品センター | ㉜広島営業所 |
| ⑭千葉支店 | ㉓大黒(L-2・L-5)営業所 | ㉝南港L-2営業所 | ㉝福岡営業所 |
| ⑮千葉倉庫営業所 | ㉔大黒営業所 | ㉞南港貨物センター | ㉞太刀洗営業所 |
| ⑯中央港営業所 | ㉕大黒崎ターミナルセンター | ㉟助松埠頭営業所 | ㉟大牟田営業所 |
| ⑰新港営業所 | ㉖根岸事業所 | ㊱明か公流通センター | ㊱宮崎出張所 |
| ⑱習志野営業所 | ㉗新興倉庫営業所 | ㊲夕見埠頭営業所 | ㊲沖縄事務所 |
| ⑲市原営業所 | ㉘鶴見事業所 | ㊳関西空港営業所 | |
| ㉑山口ステイクセンター | ㉙横浜羽沢営業所 | ㊴LNG業務センター | |
| ㉒東京事務所 | ㉚東扇島営業所 | ㊵一突出張所 | |
| ㉓大井事業所 | ㉛東扇島物流センター | ㊶南大阪営業所 | |
| ㉔大井倉庫営業所 | ㉜川崎営業所 | ㊷夢洲ターミナル営業所 | |
| ㉕冷蔵倉庫営業所 | ㉝川崎化成品由槽所 | ㊸泉佐野流通センター | |
| ㉖青海営業所 | ㉞厚木営業所 | | |
| ㉗青海流通営業所 | ㉟青海営業所 | | |
| ㉘平和島センター | ㊱金沢営業所 | | |
| ㉙芝浦営業所 | ㊲福井営業所 | | |
| ㊱新木場出張所 | ㊳浜松営業所 | | |
| ㊴東東京営業所 | ㊴名古屋営業所 | | |
| ㊵西東京営業所 | ㊵湖東営業所 | | |
| ㊶本社(横浜) | | | |



Memo
